

(シラバスNo.11)

科目名	行動分析学特論	科目コード	17P-A4	
			21P-A3	
	科目群名	専門科目 (共通領域)		
	Advanced Seminar on Behavior Analysis	必修/選択	選択	
		教職	-	
担当教員	三田地 真実	単位数	2	

【授業概要】

「行動分析学」とは「人間がなぜそのように行動するのか」の原理を解き明かそうとしてきた学問分野である。自分の行動も含めて、どのようにして人の行動を理解するための原理についてまず学び、次に、これらの原理を踏まえて、児童生徒の行動を客観的に観察し、その成り立ちについて論理的に考察できることを狙いとする。さらに行動の原理を踏まえた上で、行動支援計画の立案ができること、それに基づいた指導実践が行えることを最終的な狙いとしている。

【授業の到達目標】

本特論を受講した後に習得できる具体的な行動目標は以下の通り：

- ①心理学の根源的問い「人間はなぜそのように行動するのか？」に対して、人間の行動は「意識」によって制御されているのではなく、「結果による選択」(Skinner, 1981)であることを理解できる。
- ②応用行動分析学(ABA)の基本原理(強化の原理、消去の原理など)を理解できる。
- ③ABAの実験パラダイム(シングルケースデザイン)を理解できる。
- ④ABAの基本原理を適用して、自分の行動の制御要因を発見、見直すことができる。
- ⑤ABAの基本原理を適用して、児童生徒を含む、人間行動の制御要因についての仮説を立てられる。
- ⑥上記の仮説に基づいて、具体的な介入方法(問題解決の方法)を立案できる。

【授業の形態】

メディア授業の実施(あり)

<授業の特徴>(主に実施に◎、実施に○を付けてください)

形態	実施	具体的に実施すること
講義	◎	行動分析学の基礎となる原理、スクールワイドPBS(ポジティブな行動支援)
グループワーク・質疑	◎	毎回の授業で現場の課題を行動分析学の原理で見直すところのようになるかについてのディスカッションを行う。
演習	◎	毎回の授業で、行動分析学の原理をより良く理解するための演習を行う。
プレゼンテーション	◎	毎回の授業で、文献をまとめて発表する。
制作		
その他(教育実践)	◎	学修した内容を実際の現場で活用し、観察、記録、介入、省察を行う。

【授業計画】

回	内容
1	オリエンテーション(学校教育と応用行動分析学：なぜ行動分析学が学校現場に必要なのか?)
2	「行動」とは何か?(オペラント行動とレスポナント行動)
3	行動観察の基本(具体的な行動で表記すること)と教育現場への応用
4	行動を理解するための枠組みとしてのABC分析(ABCフレーム)を事例に適用する 単一事例実験計画法を理解し、計画を立案する

5	強化の原理（正の強化、負の強化）と教育現場への適用
6	弱化の原理（正の弱化、負の弱化）と教育現場への適用
7	消去の原理と教育現場への適用
8	観察した行動の機能を分析する、機能的アセスメントの実際
9	機能的アセスメントの結果に基づく、サマリー仮説の立案
10	サマリー仮説から行動支援計画（競合バイパスモデルを含む）を立案する
11	個別指導からシステム構築へ（スクールワイド PBS（ポジティブな行動支援））
12	自分の授業実践を ABC フレームで分析し、省察する
13	自分の生徒指導の実践を ABC フレームで分析し、省察する
14	スクールワイド PBS の実践の可能性を検討する
15	授業のまとめ（本授業の ABC フレーム分析）
試験	
<p>【履修上にあたっての準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の行動で気になるものがあれば、列挙し、それはなぜかについて考えておくこと。 ・その後に、テキストを精読しておくこと。 ・毎回、持参するもの：自分のノート PC（イヤホンも必要） 	
<p>【授業外学修（予習・復習）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習：次回の授業で学修する内容についてテキストを精読し、レポートにまとめること。 ・復習：前回の授業で学修した内容について、教育実践の現場ではどのように適用できるかについてレポートにまとめること。 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業内で課すレポート評価」（50%） 学修した行動の原理が正確に理解でき、教育実践に結び付いているか、が評価のポイント ・「科目修得試験」（50%）の割合で総合して評価する。 実際に、単一事例実験計画に基づく介入を行い、省察ができていないか、が評価のポイント 	
<p>【教科書】</p> <p>アルバート・トールマン（2004）. 『はじめての応用行動分析（日本語版第二版）』, 二瓶社. 三田地真実・岡村章司（2019）. 『保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック』, 金剛出版</p>	
<p>【参考図書】</p> <p>石黒康夫・三田地真実（2015）. 『参画型マネジメントで生徒指導が変わる～スクールワイド PBS 導入ガイド 16 のステップ』, 図書文化. オニール他（2017）. 『子どもの視点でポジティブに考える問題行動解決支援ハンドブック』, 金剛出版. オドノヒュー（2005）『スキナーの心理学』 二瓶社 杉山尚子（2005）. 『行動分析学入門～ヒトの行動の思いがけない理由』, 集英社新書. レイノルズ（1978）. 『オペラント心理学入門』, サイエンス社. パーロー・ハーセン（1988）. 『一事例の実験デザイン』, 二瓶社.</p>	